2026／01／19（月）14:00-16:30
＠静岡市庁舎　本館3階　第一委員会室

羽衣団地四十八景

～静岡に触れ、感じ、知る

静岡理工科大学　理工学部建築学科　脇坂圭一研究室

脇坂圭一・M1伊藤 勢来・B3海野 未花・B3清水 有哉・B3彦坂 優斗

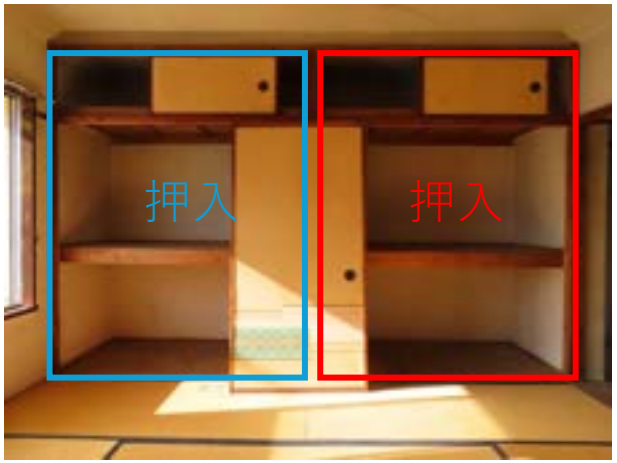
はじめに

戦後間もない１９４８年に竣工した羽衣団地。現存する最古の公営住宅団地として、この団地固有の価値をどう活用できるだろうか。エレベーターの無いアクセス、水廻りの陳腐さ、熱的性能の低さなど、課題は多々ある。

しかし、静岡駅から徒歩でアクセス可能な距離感、駿府城から西に延びる青葉通りの延長にある都市的な立地、穏やかな気候、引き戸の開閉による生活状況に応じた反nLDK的な平面形式など多くの魅力も見いだせる。

「触れ、感じ、知る」ための「羽衣団地四十八景」

・期間限定の「お試し生活／労働」ではあっても、四季折々の美しい風景の広がる静岡のまちの魅力や建物の古さの奥に潜む心地よさに「触れ、感じ、知る」ための場所として「羽衣団地四十八景」を提案する。



※青字：撤去／やり替え、赤字：下地調整の上、活用

コンセプト｜触媒としての多様なマテリアル

・住まいを、静岡の素材や技を集めたショーケースと捉えてみる。生活する上で素材に「触れ」、身体的に「感じる」ことができる。
・その素材は、なぜそこで使われ、どこで生産されているのだろうか。素材の特徴を「知る」ため、実際の自然や産地に足を運ぶことで本当の静岡を体感できる。そのきっかけ、触媒となるのが本計画である。
・現代の社会で、素材には均一さと耐久性が求められ、職人の技は失われつつある。旅行では無く、住まうからこそ見えてくる四十八景に出会うための空間としたい。

■木材

オクシズ産ヒノキ

オクシズ産スギ

丸吉木材にて認定証

株式会社丸吉木材にて

■石

安倍川にて

大井川にて

室岩洞（伊豆）にて

安倍川、大井川、伊豆にて

■紙

紙処 ますたけにて障子

紙処 ますたけにて

・われわれは実際に静岡各地を訪れ、素材が生まれる場所や、それを扱う職人のもとへ足を運んだ。川で石を拾い、山で木に触れ、工房や仕事場を訪ねて話を聞くことで、素材の性質だけでなく、その背景にある伝統や風土、時間の重なりを学んできた。
・静岡は土地固有の魅力的で多彩な素材に囲まれている。こうして集めた素材は、単なる建材ではなく、静岡の土地に根ざした「かけら」とも言える。それぞれの素材がもつ文脈や手ざわりを理解した上で、空間に編み込んでいく。

たけにて障子

たけにて

■竹細工

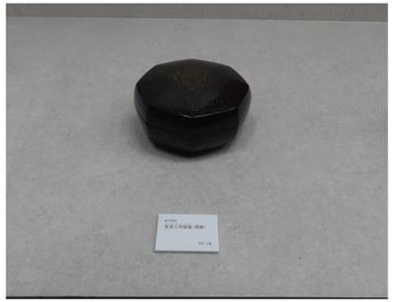
匠宿にて竹細工の説明を受ける

匠宿にて体験する

匠宿にて竹の網代編み＿取っ手

竹

■駿河漆器・指物



駿河漆器

駿河指物

■左官

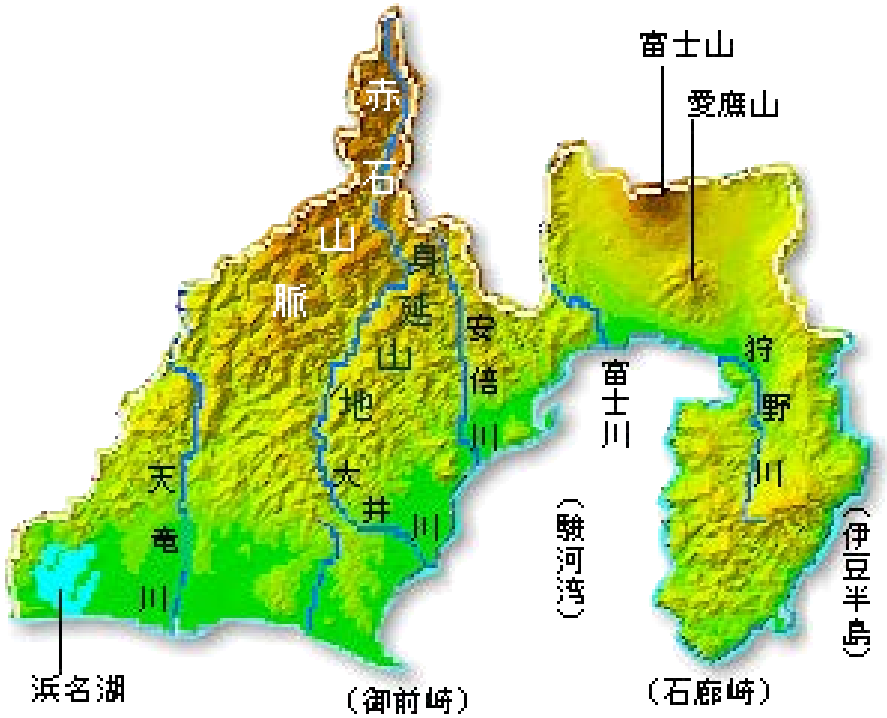
山脇豊さんに話を聞く

多様な左官表現

1. 石｜

・糸魚川―静岡構造線が通る静岡は、フォッサマグナを隔てて東日本と西日本に分割される境界に位置する。石の組成にもその違いが表れる。また、安倍川や大井川をはじめ、北から南へ流れる河川によって分断される地理的条件は、個々の地域の個性を育む事にも繋がっていった。

参照：フォッサマグナミュージアム



参照：ジオテック

大井川　　安部川　　伊豆石（室岩洞）

参考：大分県立美術館　展示→

・地域の河原から採取した石を用い、砕いてテラゾーとして、使用する。

ハンマーで
粉砕

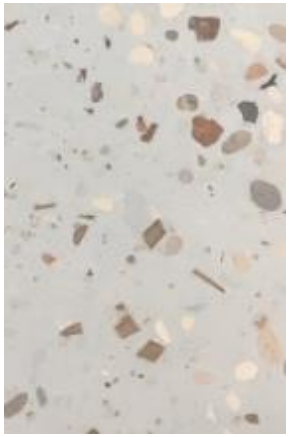
型枠

撹拌

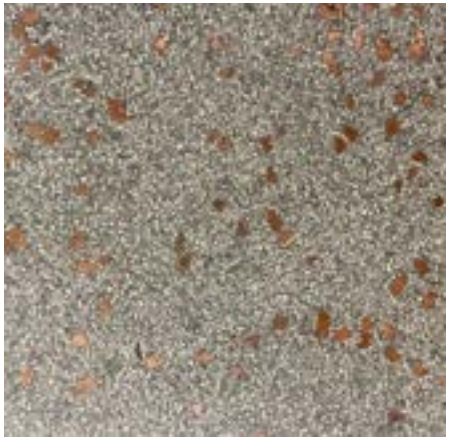
流し込み

研磨

石テラゾー



茶葉テラゾー



金属線テラゾー

2. 木

・市域の約76%が森林である静岡市の北、奥静岡地域は南アルプスと接しており、豊かな森林資源としてオクシズ材が生産されている。
・富士ヒノキは、富士山麓南側で強度、耐久性に優れたブランド材として生産されている。

参照：静岡県

参照：きこり社

オクシズ材
杉、ヒノキ

富士ヒノキ

木フレーム45×45

・羽衣プロジェクトでは床材として、住戸毎に種類を変えて使用する。

3. 駿河漆器、駿河指物

・家康の命により焼き払われた後、再び造営された浅間神社。その際、全国より優れた職人が集められ、漆塗りに適した気候も手伝って職人が住み着き、木工、漆器、模型等を手掛けるようになった。それが伝統工芸として駿河漆器、駿河指物に発展していった。

駿河指物　道具

浅間神社

駿河漆器　工程

網代と竹の把手

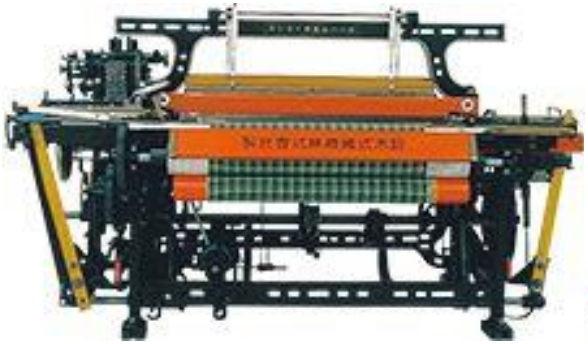
織部床上部の雲板

・模型の技術は静岡に本社を構えるタミヤの創業につながり、静岡は全国一のプラモデル産地となっている。
・羽衣プロジェクトでは、和室の雲板に駿河漆器の深みのある磨きだし行ったり、家具の引出の取っ手に竹を用いる計画とする。

4. 織物

・遠州地域は泉州（大阪）、三河（愛知）と並び、日本三大織物産地の一つである。天竜川の豊かな水流と温暖な気候によって江戸期以来、綿花の栽培が盛んに行われてきた。綿花農家が自給自足ではじめた手機による綿織物が市場に出回り、明治期には洋式紡績工場が設立され、トヨタやスズキの源流となる織機が発明された。

1890年 豊田式木製人力織機



1909年 鈴木式織機製作所

シャトル織機

パリ／ミラノ・
コレクション

コットン・オーガンジー

参照：HUIS

・現在では、ハイブランドのバイヤーが生地の買い付けに訪れ、パリやミラノでのコレクションに遠州織物が使われている。
・シャトル織機は低速で織るため強度が出るが、既に生産終了しており、貴重な機械である。
・羽衣プロジェクトではカーテンの素材にコットン・オーガンジーを用いる。

カーテン（ダブル）設置実験

5. 土

・土には場所毎に固有の色合いがあり、赤、黄、緑、白など、驚くほど多様である。鉄分の多い土地、陶磁器生産が盛んな土地、粘土質の土地など、土は土地の来歴と深く結びついている。

・土は、骨材として入れる藁すさ、補助剤として入れる砂やのりの有無／分量によって、さらには「撫で／押さえ／磨き」の仕上げ方によって多様性は無限大となる。

・左官職人によれば静岡の土は「黒っぽい」と言う。富士山の火山灰の影響もあるが、それゆえ調湿性、蓄熱性に有利な土と言える（例：薩摩中霧島シラス壁）。均質で割れない新建材が選ばれがちな現代において、羽衣プロジェクトならではの「陰影礼賛」を表現したい。

［土］

浅葱土(掛川)

赤土(三方原)

白土(豊田)

セメント

［混ぜ方］

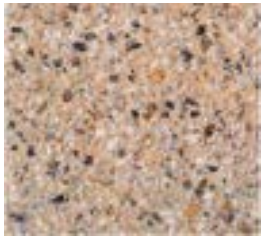
［主原料］消石灰 ＋ ［骨材］すさ ＋ ［補助剤］のり

本漆喰

［主原料］主原料の土 ＋ ［骨材］藁すさ ＋ ［補助剤］砂、水

色土壁

［主原料］主原料の土 ＋ ［骨材］砂、砂利 ＋ ［補助剤］消石灰



洗い出し

［仕上げ方］

磨き仕上げ

押え仕上げ

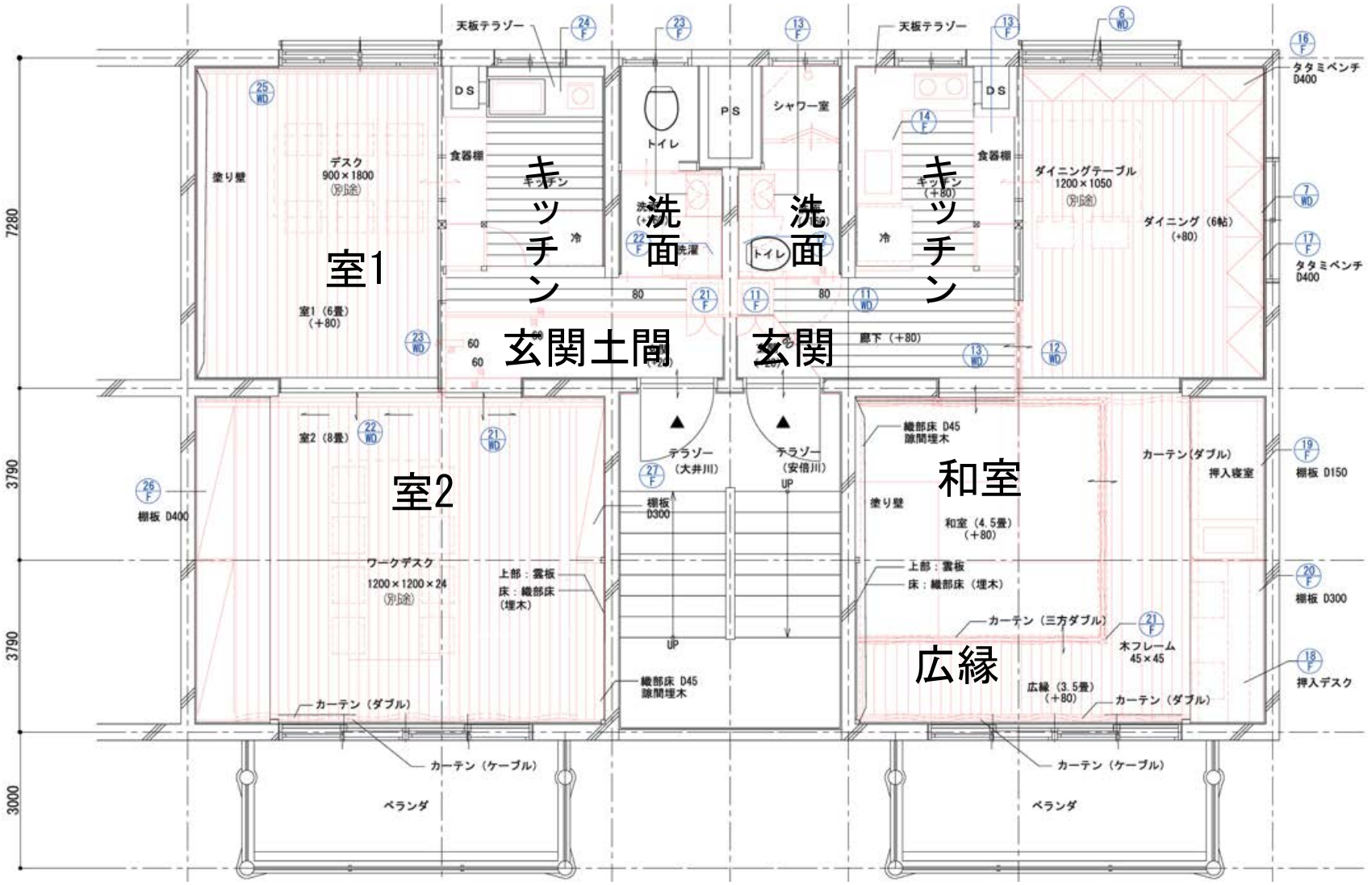
撫で仕上げ

参照：左官屋本多

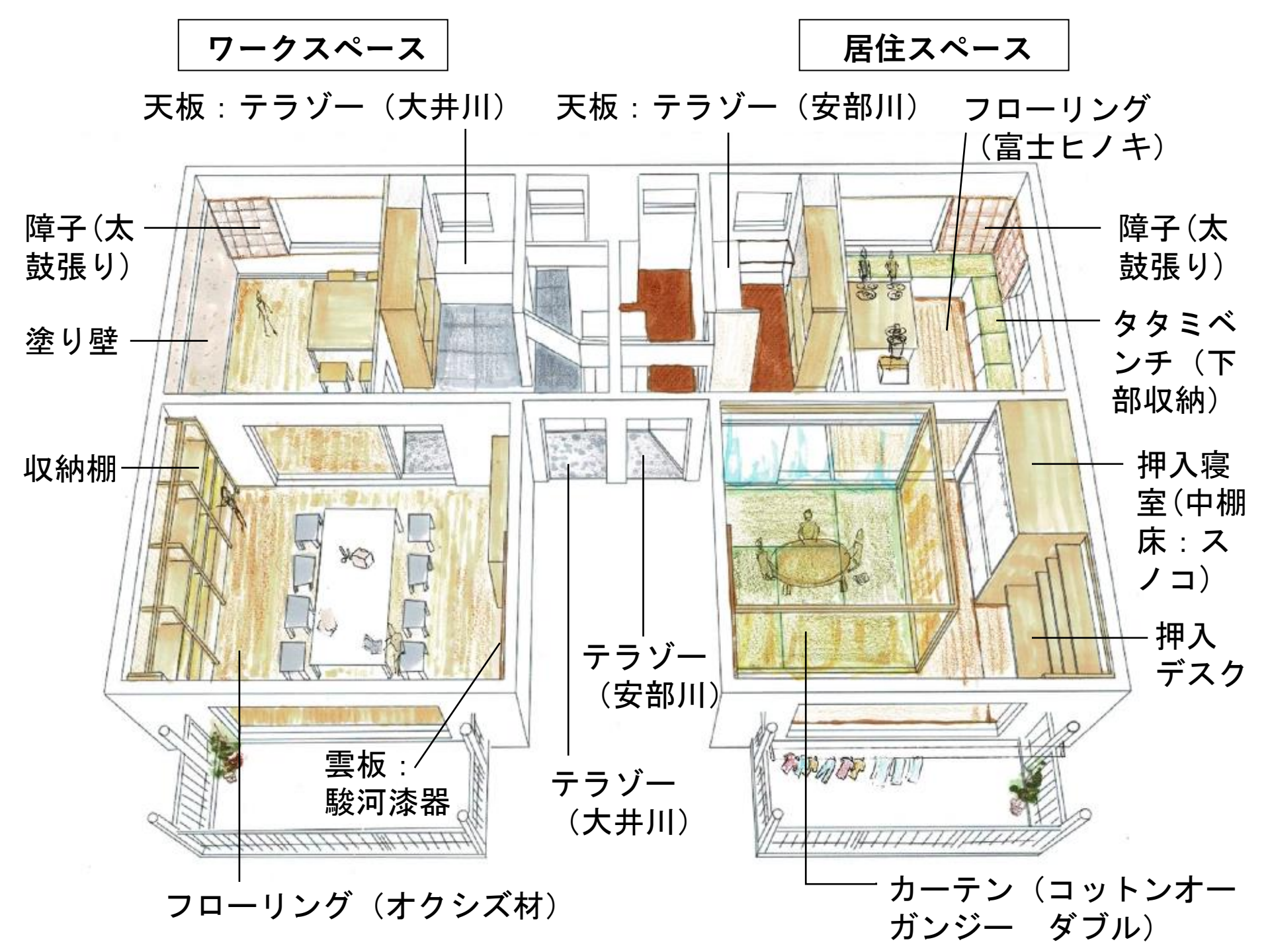
平面図

ワークスペース

居住スペース

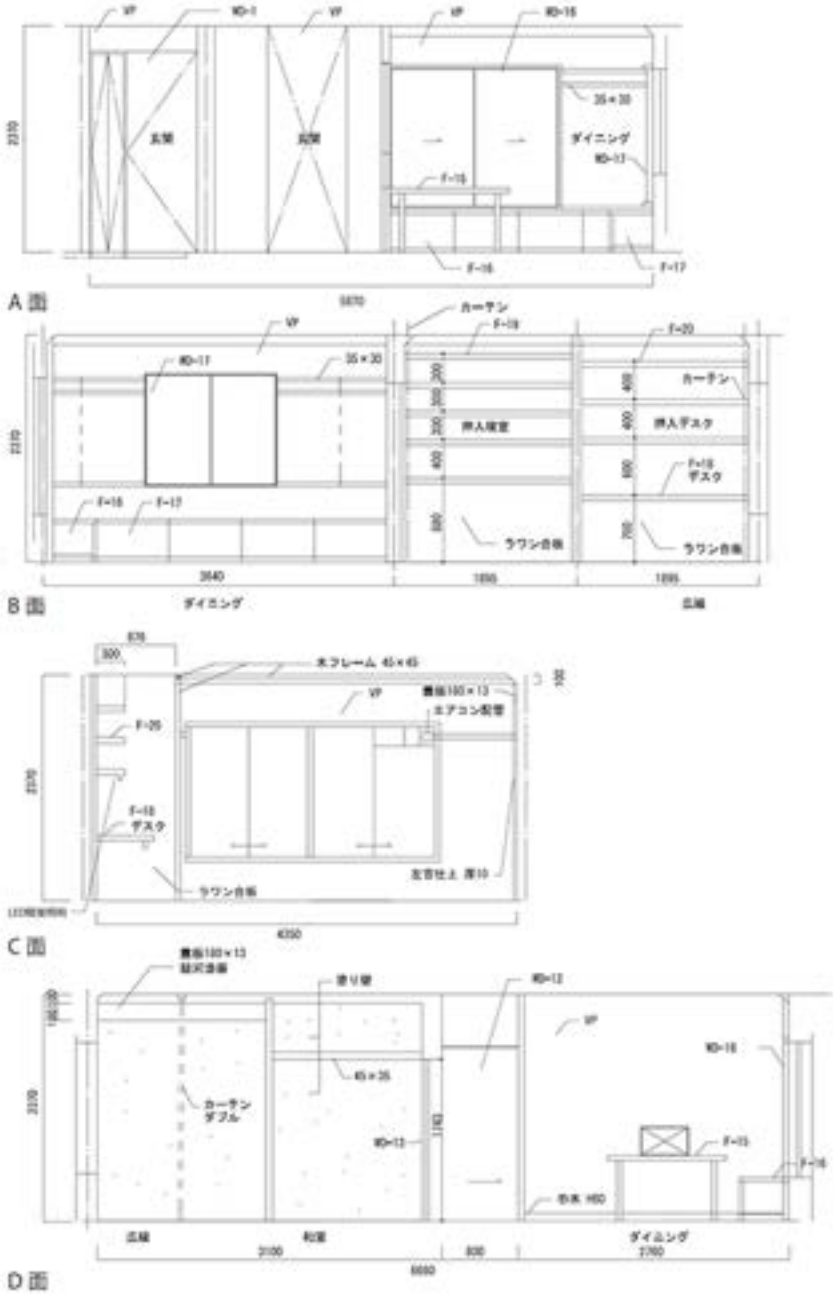


・520万円（経費込）という厳しいコスト制約ゆえRC壁の撤去、補強は行わない。
・引き戸によって連続／分割出来る可変的構成を活かす。


ワークスペース
居住スペース
天板：テラゾー（大井川）
天板：テラゾー（安部川）
フローリング（富士ヒノキ）
障子（太鼓張り）
塗り壁
障子（太鼓張り）
タタミベンチ（下部収納）
収納棚
押入寝室（中棚床：スノコ）
押入デスク
テラゾー（安部川）
雲板：駿河漆器
テラゾー（大井川）
フローリング（オクシズ材）
カーテン（コットンオーガンジー　ダブル）

展開図（兼断面図）

居住スペース



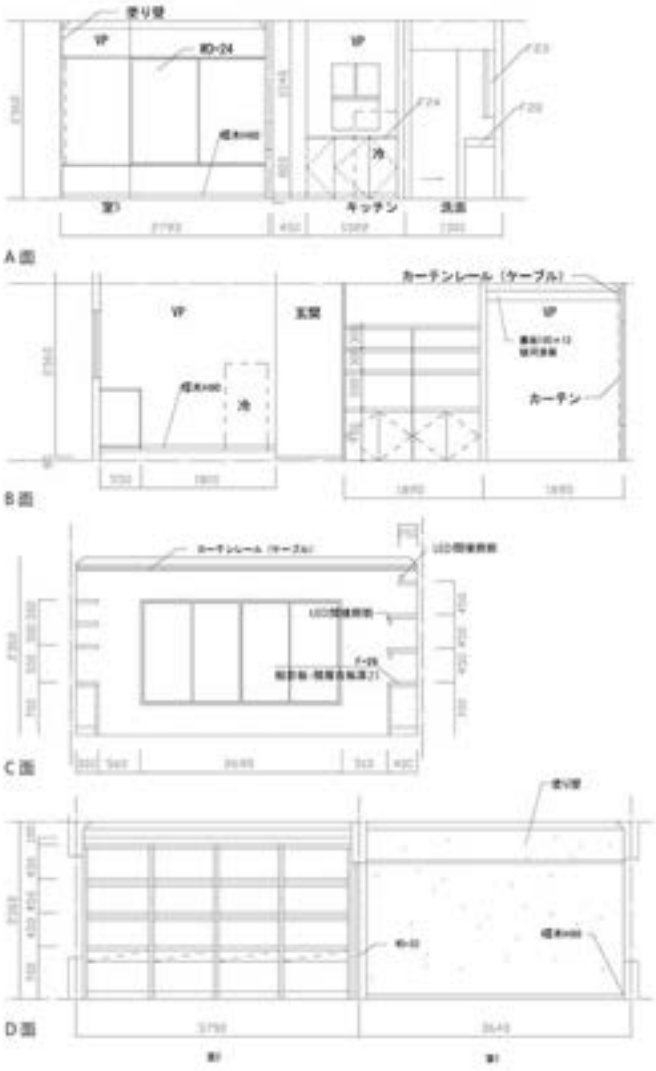
△ｷｯﾁﾝから配膳口越しにﾀﾞｲﾆﾝｸと繋がる。
和室のｶｰﾃﾝが揺れる様子が見える。

△ﾀﾞｲﾆﾝｸﾞから和室、外部を見通す。

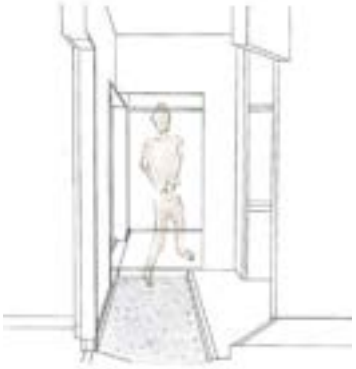
△和室からｶｰﾃﾝ越しに広縁、押入寝室を見る。

展開図（兼断面図）

ワークスペース



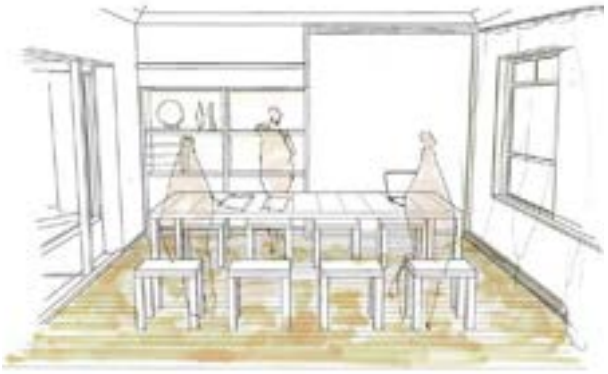
△玄関土間から室１、ﾀﾞｲﾆﾝｸﾞ、ｷｯﾁﾝにｱｸｾｽ



△玄関土間

△室１西面の塗り壁

△室2、西側収納棚



△室2、東側収納棚と雲板

想定居住者像

・単身者、夫婦またはパートナー同士、子連れ家族を想定。

・ワークスペースは、例えば、ガイドツアーを生業とする居住者のオフィス兼展示スペースとすることも想定。室2の収納棚には団地関連のコンテンツを整理／保管するとともに展示に供する事が出来る。

仕上げイメージ

↑障子太鼓張り

↑障子太鼓張り
（三枚引き）

↑露出ボックス+電球+カーテンワイヤー+クリップ

↑合板棚板　幕板裏ライン照明

↑露出ボックス+ツイストコード+クリップスタンド+電球

［**建具計画**］北側、東側の外部サッシには障子（太鼓張り）を用い、断熱性能および光環境の向上を図った。
［**照明・電気配線計画**］露出コンセント／スイッチボックス、電球によりラフな仕上がり感、シンプルかつ直接的なデザイン、安価なコストを実現した。

四十八景を生み出すフィルターとしてのコットンオーガンジーカーテン（ダブル）

Fin.

[参考資料]電気設備・資材、カーテン